



2013年4月12日
東経連ビジネスセンター

PRESS RELEASE

東日本大震災の産業復興・新生に向けて、
日中間の産学連携プロジェクトをコーディネート
「アカガイの高効率複合生産システムによるグローバル増養殖産業の開発」

東経連ビジネスセンターでコーディネートを行った国際的な産学連携プロジェクト「関東地域の産業復興・新生に向けたアカガイの高効率複合生産システムによるグローバル増養殖産業の開発」が（独）科学技術振興機構の復興促進プログラム（マッチング促進 平成25～26年度）に3月22日付で採択されましたので、お知らせいたします。

（プロジェクトの概要）

東日本大震災前までアカガイの水揚げ日本一を誇っていた名取市閉上地区の復興に寄与すべく、水産に関する東北大学の高いレベルの基礎研究と中国における海洋科学技術の進歩に中心的な役割を果たしている中国海洋大学（山東省青島市）が持つ養殖技術、さらに養殖装置開発に高いノウハウを持つ㈱晃和工業（石巻市）が連携することで、アカガイの効率的な養殖技術を確立し、大震災からの産業復興・新生に貢献することを目標に立ち上げたものです。

今後、中国海洋大学の実証フィールド等も用いながら技術開発を進め、人工的な稚貝生産から漁場への放流、さらに、内陸養殖技術開発等の複合的なシステム開発に取り組みます。

（プロジェクト発足の経緯）

東経連ビジネスセンターでは、昨年6月に「ナチュラル・イノベーション支援事業調査報告書」を発表し、被災地域の産業復興・新生に向けて、水産加工業等の農林水産分野でのイノベーション、いわゆるナチュラル・イノベーション創出の重要性を提唱しています。

この観点から、昨年11月に、中国における養殖技術や食品加工等のナチュラル・イノベーションが最も進んでいる山東省の中心都市青島市にビジネスミッションを派遣しました。その際、アドバイザーとしてミッションに参加した東北大学農学部の木島教授が中国海洋大学李教授と東北地域の震災からの復興に向けた協力で合意し、これを受け、帰国後、東経連ビジネスセンターが㈱晃和工業に参加を呼び掛けて当プロジェクトを発足させたものです。

【問い合わせ先】

東経連ビジネスセンター 高玉、西山

〒980-0021 仙台市青葉区中央 2-9-10 セントレ東北 11階（一般社団法人東北経済連合会 事務局内）
Tel. 022-225-8561 Fax. 022-262-7055 <http://tokeiren-bc.jp/>



<参考1>

ーアカガイの高効率複合生産システムによるグローバル増養殖産業の開発プロジェクトー
品質的に優位なアカガイの複合連続生産法を確立するため、下記の5つの増養殖システム開発に取り組む。

①効率的目的別人工種苗生産システム（交配、孵化、幼生、稚貝生産システム）、②被災地生産適地への放流による資源復活システム、③巨大養殖池を用いたナマコとの混合養殖システム、④陸上養殖による高付加価値優良個体生産システム、⑤新品種作成のための選択・育種システム。

本システムは、アカガイのみならず、アワビ、ナマコ等海産無脊椎動物の飼育にも応用可能な汎用システムである。また、システムを稼働させるエネルギー削減のため、自然エネルギーの活用も検討する。

○メンバー：李琪 中国海洋大学水産学院教授、木島明博 東北大学大学院農学研究科教授、小濱泰昭 東北大学未来科学技術共同研究センター教授、西川正純 宮城大学食産業学部教授、(株)晃和工業

○JSTマッチング促進採択期間：平成25～26年度

<参考2>

ー中国山東省ビジネスミッションー

1. 期間：平成24年11月25日（日）～11月29日（木）

2. メンバー

団 長 坂本 敏昭 (社)東北経済連合会専務理事
アドバイザー 木島 明博 東北大学大学院農学研究科教授
" 鈴木 康夫 東経連ビジネスセンター事業化コーディネーター
(宮城大学地域連携センター教授)
" 小林 毅 東経連ビジネスセンター事業化コーディネーター
(青島多福康食品有限公司総経理)
団 員 ナチュラル・イノベーションに関する東北地域の企業5社

<参考3>

ー中国海洋大学ー

中国のトップクラス大学の一つで、特に海洋科学、水産科学の分野の研究・開発等で顕著な実績をあげてきており、中国の養殖産業発展にも大きく貢献をしてきている。

李琪教授は、東北大学への留学経験もあり、中国でのナマコやアワビの内陸養殖技術開発に多大な功績をあげている。

ー中国の水産業ー

FAO（国際連合食糧農業機関）による2009年世界の漁業・養殖業生産と中・日シェア
漁業生産量 9012万トン（うち中国17% 日本5%）
養殖業生産量 7304万トン（うち中国62% 日本2%）

中国は今や世界最大の水産国家。特に養殖業では、鯉類やエビ・カニ等の淡水性の養殖に加え、アワビ、ナマコ、スズキ等の海洋性魚介類の養殖が急速に伸びてきている。

以上